

氏名	鈴木 康 徳
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3523 号
学位授与の日付	平成12年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Evaluation of Liver Function Parameters by Tc-99m-GSA Using Multivariate Analysis: A Study of 47 Clinical Cases (多変量解析を用いたTc-99m-GSAによる肝機能指標の評価： 47例における検討)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 小出 典男 教授 田中 紀章

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Tc-99m-GSAによって得られた肝機能指標と、既存の肝機能検査との相関を調べるため、正準相関分析を用いて検討した。対象は経カテーテル肝動脈塞栓術（TAE）を施行した肝細胞癌47例である。

LU15、HH15、LHL15の核医学指標を基準変数群とし、T.Bil、Alb、Ch-E、KICG、HPT、PTの血液生化学検査を説明変数群として正準相関分析を行った。正準相関係数は0.7345、上側確率は0.00167と両群の間には有意な相関が認められ、血液生化学検査群の中ではCh-E、KICG、HPTが核医学指標と強い関連を持つことが示された。

核医学指標の構造係数はいずれも高く、LU15はLHL15やHH15と同様に有用な指標であることが認められた。今回の検討ではT.Bilは核医学指標とは違った視点から肝機能を評価していると考えられ、TAEの適応を決定する際にはT.Bilを重要視する必要があると思われた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、Tc-99m-GSAによって得られた肝機能指標と、既存の肝機能検査との相関を調べるため、正準相関分析を用いて、経カテーテル肝動脈塞栓術（TAE）を施行した肝細胞癌 47 例について研究したものである。その結果、LU15、HH15、LHL15 の核医学指標を基準変数群とし、T.Bil、Alb、Ch-E、KICG、HPT、PT の血液生化学検査を説明変数群として正準相関分析を行ったところ、いずれも、強い関連を持つことが示されたが、T.Bil は核医学指標とは違った視点から肝機能を評価していると考えられ、興味ある知見であった。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。